



TITLE:

超海王星の発見事情：アメリカ便り  
(超海王星発見記念號)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

超海王星の発見事情：アメリカ便り (超海王星発見記念號). 天界 1930,  
10(110): 200-202

ISSUE DATE:

1930-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161535>

RIGHT:

レイ彗星が最近に出現した頃、此の豫想と觀測との不一致は或る未遊星の存在によるものだらうといふ意見を發表したことがあつたが、當時此の暗示の徹底的な研究は行はれなかつた。故に、こんごの新遊星の發見は、數理天文家に對して多大の研究問題を提供するものである。尙ほ又、之れは宇宙論の研究者にも問題を提供してゐる。サ・ジェムス・ジ・ンズ氏は去る三月十六日の Observer 紙上に於いて、「之れは昔し太陽の近傍を他の星が通過した時に太陽から投げ出されたシガ1形の細線の尖端部を表はしてゐるものだらう」と言つてゐられる。して見ると、之れは、冷却し固化した最初の遊星なのだらう。ジ・ンズ氏の言によれば、「此の理由により、こんごの此の星は恐らく衛星を待つてゐないだらう。

---

## 超海王星發見事情

### —— アメリカ便り ——

こんごの超海王星は、光度15等級といふのであるから、之れを聞いた人は誰しも皆「寫眞觀測に違ひない」と思つた。ところが、ロ・エル天文臺の主な器械は「24吋」の屈折望遠鏡と「40吋」の反射望遠鏡である。前者は全く眼視用の器械であるから、こんごの發見は必ず「40吋」の方で行れたものだらうといふ。想像も無理の無い話であつた。新聞電報には、「改良に改良を加へた望遠鏡」とあり、又、ハーグ・ド天文臺からの公電には「幾年にもわたる研究の結果」といふ語もある。何れにしても、此の發見は「40吋」機の成功の賜であると思はれた。——しかるに最近アメリカから獲た情報によれば、こんごの發見は、實は『ロ・レンス・ロ・エル望遠鏡』によつて行はれたものといふことが知れ、多くの人々を驚かした。しかし、今に

して考へて見ると、之れには理由が無いでも無い。

故バシヴル・ロリエルは米國ボストン市に於いて名門の出であることは既に知られてゐる。彼れの弟はローレンス (A. Lawrence Lowell) といひ、二十年にも渡つてハーバード大學の總長であつた。此のローレンス氏は一昨1928年71歳を以つて沒したが、其の際、遺産として一個の優秀な望遠鏡がロリエル天文臺に寄贈された。之れが「ローレンスロリエル望遠鏡」と、今日、呼ばれるものである。此のローレンス望遠鏡は、口径13吋(33センチ)、焦点距離63吋(165センチ)の屈折式寫眞望遠鏡であつて、大きさから言へば我が花山にある25センチ鏡や、京都大學内にある33センチ鏡や、倉敷にある32センチ鏡とほど同程度のものであり、寫眞的能率に於いては花山の46センチや、16センチよりも少しく劣るかも知れない。こんな中口径の望遠鏡が用ゐられて、成功が得られたといふことは、吾人にとつて、一つの大きなチャレンジである。ロリエル天文臺にある「40吋」は勿論、寫眞的能率に於いては「ローレンス鏡」よりも優つてゐる筈であるけれど、此の「40吋」鏡は焦点距離が割合に短かくして、視野が狭い恨みがあるから、未知星の搜索には適當でない、それで、視野のひろい「ローレンス鏡」が専ら此の搜索のために用ゐられたのである。しかし、一旦、發見が成功してからは、ラムブランド氏が主として「大40吋鏡」を用ひ、毎日の寫眞觀測によつて此の新遊星を追跡してゐる由。又、他の臺員たちは、「24吋」屈折機で眼視觀測をやつてゐる由である。

ローレンス鏡は、ハーバード大學の所在地である米國ケンブリヂ市のオルヴン・クラーク會社のカール・ルンデン Carl Lundin氏が製作した三枚玉のものである。

こんどの新遊星の、眞の發見者は始め不明であつたが、近頃到着した報告によれば、其れはロリエル天文臺の若い助手トム

ボ | Clyde W. Tombaugh 氏であるらしい。しかし、いよいよ新遊星の事實を確めるためには運動を研究する必要があり、其のためには幾人もの人が協力する必要があつたらしい。従つて、此の發見の名譽を負ふ人々としては、前記トムボ | 氏のほかに、臺長スライファ V. M. Slipher 氏、其の弟スライファ E. C. Slipher 氏、ラムブランド C. O. Lampland 氏、ウィリアムス K. P. Williams 氏、ギル T. B. Gill 氏、エトワ | ツ G. H. Edwards 氏及び、當時の滞在研究者タンカン J. S. Duncan 氏（エレスレイ天文臺長）であると傳へられてゐる。

## ハ | 彗星に關聯する水瓶座流星群

小 槇 孝 二 郎

毎年五月上旬、水瓶座に輻射点を有する一流星群が、夜明前の數時間東天に出現するが、この流星群は、十月中旬以後下旬にかけて現はれるオリオン座流星群と共に、週期彗星中最も有名であり且最も長い歴史を有し、有史以來29回の出現を確められてゐるハリー彗星に關聯するものとして知られてゐる。ハリー彗星と云へば極く最近一九一〇年（發見は前年9月）に其の雄大なる姿を全世界の人々に見せた事に於て、讀者にはあまりにも記憶に新たなるものであらう。この彗星については邦文の書籍にも相當詳しく書かれてあり、天文月報には數回載せられた事があるので、こゝにのべる必要は全くないと思ふ。（しかしこの彗星の記事を特に知りたい方は東京天文臺の神田理學士の書かれた「彗星」を御覽になるのが最も好都合であらう。

五月上旬の水瓶座流星群がハリー彗星の軌道を辿り、兩者が不離の關係を持つことを確定したのは、比較的近年の事（ハリー彗星最近の出現後）で、米國の流星天文學者 C. P. Olivier 及